

令和4年度（2022年度）第1回
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会 議事概要

日 時：令和4年（2022年）6月13日（金）13：30～15：00

場 所：かでの2.7 9階 920会議室

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

次 第：別添「次第」のとおり

議 題：議題1 第4期事業実施計画（令和2年度～令和6年度）について

議題2 令和4年度事業計画（案）及び事業予算について

議題3 地域活動支援事業 令和3年度（2021年度）事業実績及び令和4年度（2022年度）活動計画について

議題4 その他

議 事：

（1）議題1 第4期事業実施計画（令和2年度～令和6年度）について

ア 事務局から資料2に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

（2）議題2 令和3年度事業計画（案）について

ア 事務局から資料3に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

山本座長）推進事業の中で、由仁、本別、財田については、意見交換をすることになっているが、オホーツク広域地区がないのはなぜか。

事務局）基本的に、初年度と最終年度に行うため、予定していない。希望があれば実施することも可能である。

山本座長）本別については、昨年度の意見交換はしていたようだが。

事務局）オンラインでの意見交換は行っているが、顔を合わせての開催を望む声があったことから、計画をしている。

山本座長）地域活動支援事業地区の掘り起こし強化期間が7月、10月にあるが、これはどのようなことをするのか。

事務局）直接、道庁農村設計課へ地域活動支援の相談が来ることはほぼないため、各振興局の担当宛てに依頼をし、地域活動支援地区の掘り起こしを積極的に実施するもの。今現在も、4地区ほど、地域活動支援につながりそうな地区がある。

山本座長）そのような地区に対しては、引き続き地域活動支援につながるように、対応をお願いする。また、指導員に対しても、地域活動につながるような掘り起こし活動をお願いしてほしい。

(3) 議題3 地域活動支援事業 令和3年度(2021年度)事業実績及び令和4年度活動計画について

ア 事務局から資料4に基づき説明

イ 質疑応答 (有・無)

[由仁地区]

大熊委員) 昨年度の意見交換の中で、メンバーのなり手が少ないとのことだが、それ以降状況の変化は。

事務局) 特にその後の、状況の変化についての報告はない。ただ、今年度も引き続き現地視察等を予定しているので、活動については前向きであるが、メンバー集めについては試行錯誤中。

山本座長) 今年度は、コロナの影響が昨年度、一昨年度よりは少なくなると思われるので、活動について期待したい。だが、継続してやっていくための部分が、お金にしても、なり手にしても、少し弱い部分がある。その点を現地に対して、懸念していると伝えてほしい。

大熊委員) 人が増えない、減っていく中で、それに併せて活動も縮小する懸念がある。せっかく、元気があり、楽しく活動しているグループなので、是非、活動を続けていってほしい。

[オホーツク広域]

山本座長) 構成員の美幌町まちおこし協力隊は、一人なのか。

事務局) 二人入っている。

大熊委員) 昨年の意見交換の中で、オホーツク広域地区の構成員間の活動に対する温度差があるように感じた。連携についてはうまくいっているのか。

事務局) そのようなこともあり、体験コンテンツ部会の方では各団体を訪問して、それぞれで意見交換を行っている。また、新しいコンテンツということで、野鳥ガイドの育成を、それぞれの団体から募って、広域地区全体で行っている。

山本座長) オホーツク広域地区は、体験コンテンツ部会と、教育旅行部会の二つの部会が、平行で活動しており、お互いリンクしているから、互いに引っ張りながらやっているように見えるので、とても良いことである。

[本別地区]

山本座長) この地区は、コロナの影響はあったが、出来ることはしっかりとやっている感じ。メンバーも5つのラボに分かれて活動しており、期待の出来る地区である。

事務局) 今年度、現地での意見交換を予定しているので参加を願いたい。

[財田地区]

山本座長) 今年度の活動計画について、委託費の占める割合が多い。ステッカーについても、自分たちで貼るのでは。

事務局) 自分たちで貼るための、統一したものを作成するためである。

山本座長) この活動計画内容では、JA か町で行う内容に見える。

大熊委員) 地域感があまり見えない。具体的ではないが、この地区がやりたいことはあるのか。

事務局) 現地で意見交換をした際には、色々なことをしたいという思いがあったが、計画としてはこう言う形で、あがってきた。初年度としては、致し方ないが、たとえば、地元の小学生が書いたものを、デザインとして取り入れるなど、次の年度からはもう少し違う形での計画とするように、要望を出している。

山本座長) 初年度は翌年以降の活動のための必要なものとして理解できるが、次年度以降の活動については、もう少し考えてほしい。

事務局) 振興局へその旨伝える。

山本座長) 財田という狭いエリアで、14 戸しか農家がない中でもっと、密に話し合う事が出来るのではないか。

大熊委員) 14 戸しかないのであれば、生産する量に限りがあるので、たくさん PR をして全国で有名になったとしても、供給量として限界があるので、かなりの工夫が必要。

山本座長) 財田地区は沢地なので、全農家で有機農法をして無農薬による付加価値を高めることも出来る。

大熊委員) 国としても、SDGs 時代にふさわしいみどり戦略を打ち出しているし、時代に沿った形ではある。

山本座長) 量がとれない中で、戦略的に付加価値を高める必要がある。

大熊委員) 財田地区は、工夫の仕方次第で独自の活動が出来そうな地区である。

山本座長) 地元の方へ、今まで出た意見を伝えてほしい。

(4) その他

ア 事務局から農業・農村ふれあいフェスタ in 赤れんがについて説明。

イ 質疑応答 (有・無)

